

「土砂災害から身を守るために」

千葉県 鎌ヶ谷市立北部小学校 6年 <sup>すずき</sup>鈴木 <sup>りん</sup>凜

私は、2017年7月5日に発生した、「九州北部豪雨災害」のニュースを見ました。

「九州北部豪雨災害」では、24時間の雨量が545ミリを超えました。これは観測史上最大級の雨量だったということを知りました。線状降水帯による豪雨で、死者37名、行方不明者4名、2,000名以上の人が避難生活を送っていたそうです。土砂災害による被害も多く、発生件数は、約307件だったそうです。内訳としては、土石流による被害が163件、地滑りによる被害が3件、崖崩れによる被害は141件でした。当時の映像を見ると、至る所に流木が散乱していて、災害前に何があったのか分かりませんでした。一瞬にして全てを飲み込んでしまう土砂災害は、本当におそろしいと思いました。

他にも土砂災害は色々な場所で何度も起きていることが分かりました。例えば、2011年に発生した、台風12号の被害では、十津川村で死者6名、行方不明者6名、重傷者3名という大きな被害がありました。このようなことを知って、土砂災害は遠い地域の話だけではないと思いました。

そこで、私は土砂災害から身を守る方法を調べました。すると、3つのポイントに分かれていました。

まず、1つ目のポイントは、土砂災害の前兆を知り、覚えておくということだそうです。前兆は、崖や地面にひびわれが起きたり、地鳴りや山鳴りがしたり、雨が降り続けているのに川の水位が下がったりすることなどです。このような前兆に気付いたらすぐに避難することが大切だそうです。

次に、2つ目のポイントは、自分の住んでいる所や、よく行く所が、土砂災害警戒区域か確認し、覚えておくことだそうです。都道府県や市町村が作成している「ハザードマップ」で安全な所をあらかじめ確認し、覚えておくことが大切だそうです。

最後に、3つ目のポイントは、土砂災害警戒情報に注意することだそうです。警戒レベル3で、体の弱い高齢者や乳幼児の親族は避難を始め、警戒レベル4では、できる限り全員が避難することが大切だそうです。このように、よゆうのある行動が大切だそうです。避難のために外へ出るのが危険だと判断した場合は、無理に外へ出ず、建物の2階以上に上がることも重要だそうです。このように、覚えることが多いですが、自分の命は自分で守らなければいけないと思いました。

私の住んでいる千葉県鎌ヶ谷市について、「ハザードマップ」で調べたところ、私の通っている小学校の近くの道が「冠水しやすい危険な箇所」となっていました。よく使う場所を覚えることは、ポイントにもあったので、覚えたいと思いました。

「ハザードマップ」という言葉は、ニュースなどで知っていましたが、実際に自分で確認したことがありませんでした。私のような人も多いと思います。そのような人が、突然の大雨などで被害にあわないように、土砂災害のおそろしさと身を守るポイントについて周りの人にも教えたいと思いました。